

2011 年度

事 業 報 告 書

学校法人 鎮西学院

長崎県諫早市西栄田町 1212 番地 1

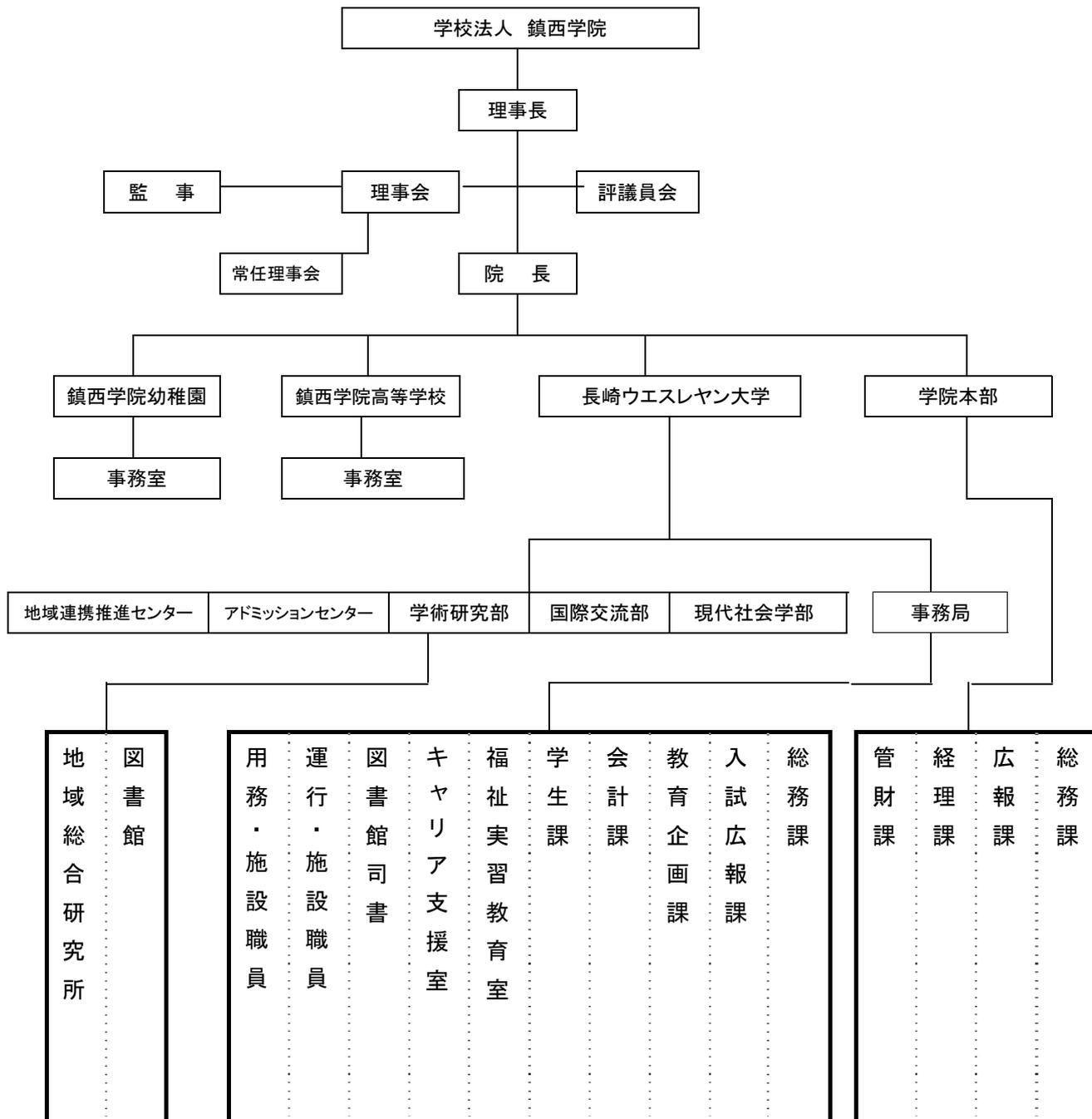
学 院 本 部

◆設置する学校等及び入学定員

2012年5月1日現在

- 長崎ウエスレヤン大学 現代社会学部 定員 160名
 社会福祉学科 50名 経済政策学科 70名 外国語学科40名
- 鎮西学院高等学校(全日制課程) 定員 300名
 普通科 200名 商業科 100名
- 鎮西学院幼稚園 収容定員 140名

◆学院組織



■ 学院役員

2012年5月1日現在

理 事 長	栗 林 英 雄
院 長	林 田 秀 彦
大 学 長	森 泰 一 郎
高 校 長	川 村 正 徳
園 長	渡 部 勇
法 人 事 務 局 長	加 藤 育 男
宗 教 主 事	山 城 順(大学) ・ 鐵 口 宗 久(高校)

■ 理 事 会

理事会開催状況

- ・ 2011年 5月27日 定期理事会
- ・ 2011年 10月25日 定期理事会
- ・ 2012年 1月24日 定期理事会
- ・ 2012年 3月26日 定期理事会

○理事・監事

(理事定数 15名 監事定数 2名)

2012年5月1日現在

番号	職 名	氏 名	選任区分	職 業
	理 事 長 (非常勤)	栗 林 英 雄		理事長
1	理 事 (常勤)	林 田 秀 彦	職 務 上	院長
2	理 事 (常勤)	森 泰 一 郎	職 務 上	学長
3	〃 (常勤)	川 村 正 徳	職 務 上	校長
4	〃 (常勤)	渡 部 勇	職 務 上	園長
5	〃 (常勤)	加 藤 育 男	職 務 上	法人事務局長
6	〃 (非常勤)	栗 林 英 雄	校 友 会 員	九州ガス(株) 代表取締役会長
7	〃 (非常勤)	山 口 哲 生	校 友 会 員	
8	〃 (常勤)	山 城 順	教 職 員	宗教主事
9	〃 (常勤)	鐵 口 宗 久	教 職 員	宗教主事
10	〃 (非常勤)	齊 藤 堅 固	学識経験者	
11	〃 (非常勤)	杉 原 宏 一	学識経験者	学院教育顧問
12	〃 (非常勤)	森 俊 介	学識経験者	厚生労働省 社会保険審査会委員
13	〃 (非常勤)	西 原 英 麿	学識経験者	
14	〃 (非常勤)	瀬 頭 昭 治	学識経験者	(株)杵の川 取締役相談役
15	〃 (非常勤)	木 ノ 脇 悦 郎	教 役 者	福岡女学院院長・学長
1	監 事 (非常勤)	渡 瀬 寛		(株)ワタセ 取締役会長
2	〃 (非常勤)	井 手 雅 康		税理士

■ 評議員会

評議員会開催状況

- ・ 2011年5月27日 定期評議員会
- ・ 2011年10月25日 臨時評議員会
- ・ 2012年3月26日 定期評議員会

○評議員

(評議員定数 31名以上 32名以内)

2012年5月1日現在

番号	職名	氏名	選任区分	番号	職名	氏名	選任区分
1	評議員	林田秀彦	職務上	26	評議員		幼稚園保護者
2	〃	森泰一郎	職務上	27	〃	齊藤堅固	学識経験者
3	〃	川村正徳	職務上	28	〃	杉原宏一	学識経験者
4	〃	渡部勇	職務上	29	〃	森俊介	学識経験者
5	〃	佐藤快信	職務上	30	〃	西原英麿	学識経験者
6	〃	川崎健	職務上	31	〃	山口哲生	学識経験者
7	〃	山城順	職務上	32	〃	野田和人	学識経験者
8	〃	鐵口宗久	職務上				
9	〃	加藤育男	職務上				
10	〃	中野伸彦	大学教員				
11	〃	佐藤快信	大学教員				
12	〃	シヨセフ・ロメロ	大学教員				
13	〃	向敏彦	高校教員				
14	〃	早稲田信衛	高校教員				
15	〃	山口壮一	高校教員				
16	〃		大学職員				
17	〃	駒庭高明	高校職員				
18	〃	栗林英雄	校友会推薦				
19	〃		校友会推薦				
20	〃	北浦定昭	校友会推薦				
21	〃	西嗣也	校友会推薦				
22	〃	木ノ脇悦郎	教役者				
23	〃		大学保護者				
24	〃	若杉能將	高校保護者				
25	〃	松田洋一	高校保護者				

長崎ウエスレヤン大学

長崎ウエスレヤン大学 2011 年度 事業報告

I 大学中期経営目標の達成状況

2007 年度より 5 カ年、中期経営計画のもと、学生募集の強化と教育力の向上により、大学財政再建に取り組んできたが、計画最終年度においても当初目標を達成できなかった。

特に、学生募集においては、2010 年度より秋季入学制度を導入し、海外協定大学との交流プログラム(二重学位制度や短期留学制度)により、私費留学生の積極的受け入れに取り組んだが、2011 年 3 月の東日本大震災の影響が大きく、前年度並みの入学者数となった。

定期昇給の見合わせ、時間外手当の見直し、非常勤講師の削減等、支出の抑制に取り組んだが、学納金と補助金の減収により、支出超過となった。

以上のような厳しい状況の中で、教育力の向上においては、2009 年度より文部科学省補助事業として「多様な学生のエンプロイアビリティ形成のための個別支援体制」事業の展開により、キャリア開発支援プログラムの充実、eポートフォリオ・システムの導入など、教育学習支援体制の強化に取り組んだ。その結果、就職率は、2010 年度の 66.3%から 2011 年度は 76.4%へと向上した。

II. 教育研究分野

1. 多様な学生のエンプロイアビリティ形成のための個別支援体制の整備
(文部科学省 平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業(テーマ B)採択事業)

補助事業名;「多様な学生のエンプロイアビリティ形成のための個別支援体制」

補助金額; 34,840 千円(2009~2011 年度)

補助期間; 3 カ年(2009 年度~2011 年度)

【個別支援計画と学習ポートフォリオの開発と利用】

アメリカのアルバーノ大学を参考にマトリクス型eポートフォリオを開発・導入した。学部共通の教育目標と各学科における教育目標にそって、卒業時までには修得すべき知識・能力の達成目標と、段階ごとの到達目標を明示するとともに、個別支援計画の基本となる「ゼミ」「就学支援」「キャリア支援」の面談記録を学習ポートフォリオ・システムと統合することにより、総合的な就学支援が可能となった。

実際の利用にあたっては、初年次教育の核となる 1・2 年次の「基礎演習 I」「基礎演習 II」を中心に全教員に授業科目における課題アップと提出された成果に対するコメント記入を促した。

また、学生には、授業科目の課題提出以外に、授業外の様々な学生活動に関する記録を蓄積するよう促した。

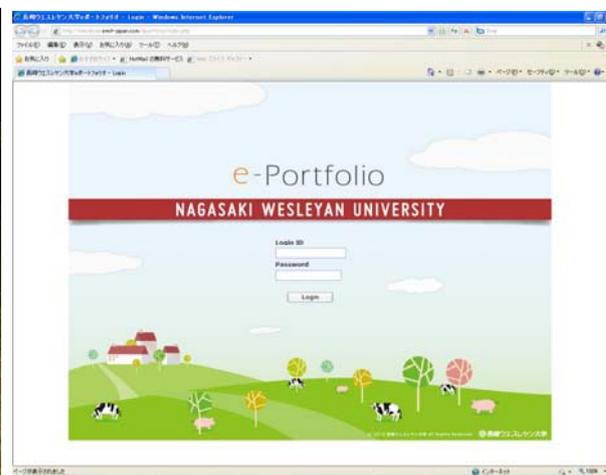
ポートフォリオ学習の成果は、補助事業最終年度に学生の成果発表として、2011 年 5 月と 11 月に 2 回行った。その結果、学生自身がポートフォリオ学習を通して、PDCAの学習サイクルを修得したことが明らかにされた。

また、11 月に開催された“大学自慢コンテスト”において、全国国公立大 12 大学が出場する中、本学留学生チームが見事優勝を飾った。

最終年度には、複雑なマトリクスをより利便性の高い使用にするべく、全学的な教育目標を改めて見直し、卒業までに修得して欲しい達成目標を 6 つの能力に集約した新たなマトリクスを開発した。



<大学自慢コンテストに出場した留学生>



<長崎ウエスレヤン大学eポートフォリオ>

【総合的なキャリア支援プログラムの開発と実施】

2011年度の学部共通科目基礎科目「キャリアデザイン」(必修)の開講に先駆け、キャリア支援プログラムの開発の一環として、2009年度には、外部専門機関との連携による「就活力養成講座」を開催し、のべ69人の学生が受講し、基礎的なキャリア形成に関する講義から、ワークショップ形式による社会人基礎力養成プログラムまで、実践的なプログラムにより、進路実現に向かう態度が向上した。また平成22年度には、外部教育機関や卒業生との連携により、「就職基礎」(2年生対象・後期15回)、「就職ガイダンス」(3年生対象・前期13回後期12回)を実施した。

併行して、全教職員を対象に、キャリア教育をテーマとした全学FD・SD研修会を年2回実施し、全学的なキャリア支援体制の基盤づくりを行った。

2011年度より開講した「キャリアデザイン」(2年次必修科目)では、上記の外部連携プログラムを参考にしつつ、プログラムを設計し、キャリア支援センター担当の教員と職員が共同して、授業を運営した。

また、面談や履歴書作成アドバイス、カウンセリングのため職員を配置したことにより、日常的なキャリア相談が行われた。

これらの取組みの結果、学生調査の結果、「卒業後の就職に対する準備の程度」に関する質問を行ったところ、「増えた」「大きく増えた」とする学生が、2009年度45.4%から2010年度57.6%と増加した。

【本学の組織的な教育力】

2009年度・2010年度は、上記のようにキャリア支援をテーマとした全教職員による全学FD・SD研修会を行い、組織的な教育力の向上を図ったが、2011年度は、教育機関それ自体の教育力の向上を図るため、全学を挙げて学科・部署ごとにSWOT分析を行い、教育プログラム上の強みと弱みを再認識するとともに、大学のミッション、ビジョン、バリューをあらためて共有し、ビジョンステートメントを協働して作成した。

大学全体の戦略テーマの中心に、「教育プログラムの体系化」と「活動する学生」を掲げるとともに、戦略の実質化への一歩として戦略マップを構築し、学生の自己実現のためのキャリア支援に一人一人の教職員がどのように取り組むべきか明らかにした。

【教育効果に関する調査結果】

学生の入学後の能力変化に関する自己評価アンケート(大学生調査)を行ったところ、ジェネリックスキルや一般的なエンployアビリティを表す能力のうち、2009年度と2010年度を比較すると、「分析や問題解決能力」61.2%から74.4%へ、「批判的に考える能力」55.4%から67.3%へ、「人間関係を構築する能力」64.6%から71.9%へ、「他の人と協力して物事を遂行する能力」61.6%から66.3%へ、「コミュニケーション能力」64.6%から68.3%へと、それぞれ向上した。

また、2011年度末の卒業生の84.3%が「本学で学んだことが、卒業後の生き方、人生観、職業観になんらかの成果をもたらしたと思う」と答えている(卒業生調査)。

就職率は、平成22年度66.3%から76.4%へと向上した。

2. オンリーワンの即戦力養成プログラムへの取組

1) 2011 年度卒業生の進路決定状況

- 卒業生の就職内定率 76.4%(3月末現在) ※2010年度末 66.3%
就職内定者 55 人
(内訳) 一般企業 29 人 福祉関係 26 人
県内 36 人 県外 19 人
※就職希望者 72 人/卒業生 94 人中
- 学科別就職内定率
社会福祉学科 78.6% 地域づくり学科 75.0% 国際交流学科 72.2%
- 福祉関係国家資格合格率 ※カッコ内は全国平均
社会福祉士 合格者数 6 人 合格率 23.1%(26.3%)
精神保健福祉士 合格者数 1 人 合格率 33.3%(62.6%)
- 主 な 就 職 先:長崎県警、長崎大学附属病院、狩野ジャパン、タナチョー、ユニマツト、
タカラベルモント(上海現地法人)
- 進学先(大学院):高麗大学大学院(韓国)、早稲田大学大学院、長崎県立大学大学
院、神戸市外国語大学大学院

2) 卒業生の質保証としてのキャリアアップ支援

- 情報処理検定・・・06年度から検定料の補助を実施。
CS 検定(ワープロ部門) 3 級 42 人合格(45 人受験)・同 2 級 2 人合格(3 名受験)
CS 検定(表計算部門) 3 級 21 人合格(23 人受験)・同 2 級 0 人受験
- 英語教育
TOEIC(IP)・・・7月・1月 2回実施 受験者数:55人(昨年度 68人)
最高スコア:935点、最低スコア:185点
- 漢字検定・・・6月・2月 2回実施 3 級 1 人合格(4 人受験)
準 2 級 6 人合格(13 人受験)
2 級 1 人合格(14 人受験)
- ホームヘルパー2 級・・・41 名が資格取得(46 名受験)

3) GPA 制度を核とした責任ある教育体制の整備

開学時より導入している GPA (Grade Point Average) 制度により、全体的な学力を評価する指標として GPA を修学指導、特待生継続資格判定において活用している。

<2011 年度累積 GPA 学年別平均>

	年度	1 年	2 年	3 年	4 年
平均	2011 年	2.45	1.99	2.29	2.32
	2010 年	2.03	2.11	2.32	2.17
最高	2011 年	3.88	3.86	3.67	3.65
	2010 年	3.92	3.46	3.68	3.54
最低	2011 年	0.23	0.29	0.68	0.86
	2010 年	0.23	0.47	0.69	0.84

<学長賞・成績優秀賞>

学長賞・・・卒業時に 4 年間で卒業要件を全て充足し、かつ累積 GPA が 3.50 以上の上位の者、若しくは学期毎に、20 単位以上を修得し、かつ累積 GPA が 4.0 以上の者

4 年生 3 人

成績優秀賞・・・学期毎に、20 単位以上を修得し、GPA が 3.50 以上の者

1 年	2 年	3 年	4 年
14 人	7 人	9 人	4 人

4) 学びの基本は体験主義ーボランティアからインターンシップまで

● インターンシップ・プログラムの強化

2011 年度からは、全学科目として開講されている。2011 年度の参加学生は 5 人、うち 1 人が辞退している。内訳は、2 年生 3 人、3 年生 1 人、学科別では経済政策学科 3 人、国際交流学科 1 人であった。

高い評価を受け自信を持つ学生や、客観的評価を受けて自身を改めて考える学生が見られ、効果は大きかった。今後も一般企業に就職を希望する学生をより多く派遣したい。また、日本企業への就職を希望する留学生についても、日本企業の考え方を理解させるため積極的に参加させたい。

	派遣者数(人)	派遣箇所数
2011	4	4
2010	9	8
2009	15	12
2008	5	4
2007	22	20

● コミュニティサービスプログラム派遣状況

<コミュニティ・サービスⅠ・Ⅱ(全学年対象)>

	プログラム名	サイト名 (会場・関連機関等)	担当 教員名	活動 時期	定員 (上限)	受講数
1	まちづくり応援隊	諫早市中心市街地アエル 2 F「まちづくり研究室」を拠点 に市内及び周辺地域	佐藤快信・ 藤崎亮一	通年	8	7
2	福祉教育関連企画支援 プロジェクト	長崎ウエスレヤン大学・ 長崎福祉教育研究会	中野伸彦	通年	8	11
3	こどもの城プレイリーダ ー事業	諫早市こどもの城(諫早市 白木峰町、コスモス花宇宙 館横)	菅原良子・ 入江詩子	通年	5	8
4	離島活性化支援事業	長崎県伊王島	鈴木勇次	通年	6	5
5	交流さんぽ会	長崎ウエスレヤン大学周辺	齊藤仁志	通年	8	18
6	日本語談話室	長崎ウエスレヤン大学周辺	齊藤仁志	通年	8	8
7	禁煙キャラバン隊ー禁 煙サポーター養成講座	長崎ウエスレヤン大学、 諫早市健康福祉センター	草野洋介	通年	8	2
8	スタディサポート	長崎県立こども医療センタ ー(永昌東町)	太田勝代・ 菅原良子・ 開浩一	通年	8	7
9	学童保育支援	ほくしょうクラブ、わんぱくキ ッズ、西諫早クラブ	開浩一	通年	8	10
10	子どものケアプログラム	学内学外施設	開浩一	通年	8	8

<コミュニティ・サービスⅡ(3・4年対象)>

	プログラム名	サイト名 (会場・関連機関等)	担当教員 名	活動 時期	定員 (上限)	参加希 望数
1	離島活性化支援事業	長崎県伊王島	鈴木勇次	通年	6	2
2	交流さんぽ会	長崎ウエスレヤン大学周辺	齊藤仁志	通年	8	5
3	禁煙キャラバン隊ー禁 煙サポーター養成講座	長崎ウエスレヤン大学、 諫早市健康福祉センター	草野洋介	通年	8	1

4	スタディサポート	長崎県立こども医療センター(永昌東町)	太田勝代・菅原良子・開浩一	通年	8	2
5	学童保育支援	ほくしょうクラブ、わんぱくキッズ、西諫早クラブ	開浩一	通年	8	2
6	子どものケアプログラム	学内学外施設	開浩一	通年	8	4

5) 図書館における学習支援機能の強化

学生図書館サポーター団体「ぶっく倶楽部」との協働により、読書環境の整備・充実に取り組んだ。基礎演習や専門演習の授業における図書館ツアー、ランチ・タイムリーディング、朝の読書活動等の活動を展開した。



<コミュニティサービスの成果発表の様子>

3. 国際交流関連事業報告

引き続き国際交流プログラムの安定的な質的・量的確保のため、秋期入学制度を導入するとともに、海外提携校との多彩な交流プログラムの更なる開発を行ったが、東日本大震災の影響が大きく、特に秋季入学者は前年並みとなった。

<秋期入学者数の推移>

	2010 年度	2011 年度
1 年次計	11	10
(内訳) 協定による短期留学生	2	5
協定による長期留学生		3
その他私費留学生	9	2
3 年次計(協定による編入学生)	6	2
交換留学生	-	4
学部生 計	17	16
日本語教育プログラム科目等履修生	9	5
合計	26	21

<交換留学生の推移>

国	協定校名	期間	前期		後期	
			派遣 (人)	招致 (人)	派遣 (人)	招致 (人)
フィリピン	University of BAGUIO	一年		3	3	(3)
タイ	College of Asian Scholars	一年	1	2	(1)	(2)
	Phone Commercial and Technical College	一年		2		(2)
ブラジル	University Methodist of Piracicaba	一年		1		(1)
カナダ	University of Fraser Valley	一年		(1)	2	(1)
	Thompson Rivers University	一年		0		0
	Bow Valley College	一年		0		0
中国	天津師範大学	一年		1		(1)
台湾	長榮大学	一年・半年		2		(2)
韓国	大邱大学校	一年		2	1	(2)
	慶南情報大学	半年		2		2
	慶北科学大学	一年		0		0
	仁徳大学	一年・半年		1		2
計			1	17	7	18

・前期は 5/1 付、後期は 10/1 付

・()内は継続して在籍した人数

<海外スタディツアー・コミュニティサービス派遣状況>

タイ、フィリピンのプログラムは、日本学生支援機構のSSSV奨学制度(3 カ月未満の派遣・招致プログラム対象 月額1人@80,000円)に採択された。

研修地	期間	派遣数(人)
カンボジア・タイスタディツアー	2011.8.18-31	7
タイ・パヤオ CSP	2011.12.22-29	6
タイ・コンケン CSP	2012.2.25-3.6	7
フィリピン OP (OP: Outreach Program)	2012.2.20-26	5

<留学生数(学年別・国籍別)>

	中国	韓国	タイ	スリランカ	台湾	フィリピン	ベトナム	カナダ	ブラジル	フィジー	合計
1年生	38	6	4	1	2	3	0	1	1	0	56
うち交換	0	6	4	0	2	3	0	1	1	0	18
2年生	17	1	0	0	0	0	1	0	0	0	19
3年生	20	1	0	0	0	0	0	0	0	0	21
4年生	33	2	0	0	0	0	0	0	0	0	35
学部生計	108	10	4	1	2	3	1	1	1	0	131
日プロ履修生	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6
合計	113	10	4	1	2	3	1	1	1	1	137

<キャンパスでの国際交流プログラム>

May Fiesta 等の異文化理解プログラムを、留学生と本学日本人学生の共同企画により実施。

- May Fiesta・・・5月21日開催。本学留学生による各国フードコートや語学教室、ゲストによる多彩なライブパフォーマンスなど。学生スタッフ60人による運営により、来場者数約300人を動員。
- International Café・・・06年度より毎月1回開催。アメリカ、カナダ、ブラジル、タイ、フィリピン、中国、韓国、台湾、毎回、留学生の母国であるいずれかの国をテーマに異文化体験プログラムを開催。多数の高校生及び一般市民の参加を得た。
- 留学生の祭典・・・7月開催。各国の留学生による歌や踊り、民族楽器の演奏といった伝統文化を披露し、一般市民も多数参加した。
- International Talk show, Speech Contest・・・11～12月に実施。留学生を交えた異文化理解についてのフォーラム及び本学学生による英語による各種発表を県内高等学校英語担当教員により審査。
- English Boot Camp・・・8月と2月に実施。Reading, Speaking,そして語彙を含んだ集中英語プログラム。

4. キリスト教主義人格教育関連事業報告

1) ピースアワーや学内外での様々なチャペル活動

4月～1月の学期中、毎週水曜日 10:30～11:00 にピースアワーを実施した。建学の精神や学院の歴史、留学や福祉実習等の様々な学生の活動報告の場とした。

2) 障害学生の受入れ

障害学生の支援体制の整備に引き続き取り組んだ。特に聴覚障害学生のためのノートテイクを始めとするスタディ・サポーターの養成を行い、障害学生からの申請に応じる支援体制の整備を継続して行った。

<障害学生の在学状況>

聴覚障害学生	肢体不自由学生	その他	計
0人	4人	0人	4人

全介助学生が2人在籍中。継続して、介助支援員を学期中常時2人雇用した。

3) 学生の動機付けのためのアクティビティの実施・課外活動の支援

学生の主体的参加・参画態度の動機付けやリーダーシップと母校愛を醸成するため、新入生交流会やメンタルヘルスケア、課外活動の支援、May Fiesta 等による異文化理解プログラムを実施した。

- ① 新入生交流会・・・学部新入生・交換留学生・日本語教育プログラム生を対象としてスポーツ交流会を実施。ドッジボールや学内オリエンテーリングなどを通し交流を深めた。
- ② メンタルヘルスケア・・・学生相談室にカウンセラー(非常勤)2人を配置。学生委員会のもとにメンタルヘルスケア委員会を設置し、学生相談室の利用状況、ケアの必要な学生を早期に把握し対処できるよう配慮した。
- ③ 課外活動の支援・・・学外施設使用料補助、各体育部の遠征費の補助、引率を実施。

< 体育系部活動の主な成績 >

クラブ名	大会名	結果
バレーボール部(男子)	九州大学春季バレーボールリーグ(佐賀)	2部5位
	九州大学秋季バレーボールリーグ(大分)	3部5位
	ウエスレヤンカップ男子バレー大会(本学)	3位
バレーボール部(女子)	九州大学春季バレーボールリーグ(長崎)	6部5位
	九州大学秋季バレーボールリーグ(福岡)	6部2位
	長崎県大学女子バレーボール大会(長崎)	7位
卓球部(女子)	全九州春季卓球大会(熊本)	2部2位 女子シングルス9位 熊川菜月
	全九州秋季卓球大会(福岡)	2部優勝 女子シングルス7位 熊川菜月
	3地区(九州・中国・四国)卓球選手権大会(松山)	女子ダブルス 石原・熊川組 女子シングルス 石原、熊川出場
	全九州卓球選手権大会(長崎)	女子ダブル・スシングルス 石原、熊川出場
	全日本総合卓球選手権大会(新潟)	女子シングルス 熊川菜月 2回戦進出
	全日本卓球選手権大会(東京)	女子ダブル・スシングルス 石原、熊川出場
卓球部(男子)	全九州春季卓球大会(熊本)	5部Bパート2位、男子ダブルス松木・内田組 4回戦進出
	全九州秋季卓球大会(福岡)	4部優勝
	全九州卓球大会(長崎)	男子シングルス 松木 出場
軟式野球部	Exciting Baseball トーナメント in 別府	2位
	Exciting Baseball トーナメント in 青島	3位 特別賞山本
バドミントン部	全九州学生バドミントン大会(宮崎)	男子シングルス 楠4回戦進出、女子ダブルス池田・田端3回戦進出
	長崎県近県バドミントン大会(県立大)	男子団体出場
	中国・四国・九州学生バドミントン選手権大会(岡山)	男子シングルス、ダブルス 女子シングルス出場
	長崎県学生バドミントン選手権大会個人戦(長崎大)	男子シングルス・ダブルス出場
	長崎県学生バドミントン選手権大会新人戦(長崎大)	男子シングルス、ダブルス出場
体操競技部	諫早カップ体操競技大会	個人2位、和田 小貴子

5. 退学・除籍者

11年度の退学・除籍者は32人となり、10年度より7人減少している。

32人のうち、8人(日本人1人、留学生7人)が学費未納による除籍である。

退学者24人の内訳は、日本人17人、留学生7人。その理由は、「就職の為」8人、「一身上の都合、家庭の事情の為」6人、「進路変更(進学・他大学への編入)の為」4人、「修学意欲の喪失」2人、その他の理由は「1年次入学の留学生が本学3年次編入学する為」「病氣療養」、「家業の手伝い」などであった。

		1年		2年		3年		4年		計		総計
		前期	後期									
2011	退学	3	3	3	5	3	4	0	3	9	15	24
	除籍	0	1	0	0	3	0	4	1	7	1	8
2010	退学	2	11	1	2	2	2	1	3	6	18	24
	除籍	3	1	2	3	5	0	1	0	11	4	15
2009	退学	4	11	0	5	0	1	0	5	4	22	26
	除籍	2	3	4	2	7	1	2	1	15	7	22

6. 地域連携関連事業報告

教育研究の実践それ自体をコミュニティサービスとして位置づけ、大学と地域社会との共生、資源の還元と循環を通して「大学の地域化」と「地域の大学化」を図るため、以下の事業を実施。

1) 公開講座の開催状況

- NICE キャンパス コーディネイト科目「諫早学構築へのアプローチ」全15回
実施時期;2011年10月5日～2012年2月1日 毎週水曜 18:00～19:30 開催
一般市民受講者数;のべ385人
- 諫早市子育て支援サポーター養成講座
実施時期;2011年12月3日～2012年2月16日
諫早市子育て支援サポーター養成講座 全4回
一般市民受講者数;のべ56人
- 開学10周年記念イベント 尾木直樹氏 講演会
実施時期;2011年5月8日
一般市民受講者数;約500人

2) 科目等履修生の受入状況

前期・後期 計36名

(スピーキング、英語コミュニケーション、中国語発音、死生学等)

※日本語教育プログラム受講生を除く。

3) 社会人の受入状況(2011年3月31日付)

1年	2年	3年	4年	計
5人	2人	2人	4人	13人

4) 受託調査・事業

調査・事業名	委託元	金額
子育て支援サポーター養成講座	諫早市	435千円
まちづくり研究室・生涯学習室の運営	諫早市	—
海の文化と島の生活を基盤とした教育プログラムの開発	NPO 法人おぢかアイランドツーリズム協会	400千円
大村市景観資源調査事業	大村市	2,205千円
計		3,040千円

この他、雲仙市観光協議会との協定による「留学生と共にすすめる地域国際化事業」を実施(長崎県地域連携型国際交流プログラム)。地域団体と本学留学生との協働による観光資源調査がおこなわれた。

5) まちづくり工房の運営

06年度より、諫早市との連携により、中心市街地商店街協同組合が建設した複合商業施設「アエルいさはや」内に設置の「まちづくり工房」の企画・運営を行い、教育・福祉・保健・医療等の総合的ネットワークの拠点づくりに取り組んだ。

7. 高大連携関連事業報告

福祉フォーラム等の三学科の趣旨に即した高校生のライフデザインに関するコンテストやフォーラムを開催するとともに、高校における進路指導の動向や、高校生の進路選択についての調査研究を継続して行なった。特に鎮西学院高等学校との高大連携については、継続的な教育プログラムを行った。

1) 第14回高校生福祉フォーラム

11月20日開催。参加状況;247人(うち高校生104人)

高校生福祉大賞コンテストを開催。高校生9団体によるプレゼンテーションコンテストを開催。

第2部は、本学客員教授でもある梁 美京(ヤン・ミギョン)氏による講演、及び、日韓福祉トークライブを開催した。

2) 第8回九州地区福祉系高校教員研究セミナー

11月19日開催。参加状況;87名(うち高校教員19人)

文科省福祉教育に関する専門官を講師に迎え、福祉教育に関する最新の動向について講演いただいた。九州圏内の福祉系高校教員が多数参加し、介護福祉士制度の改正等、高校福祉教育の方向性について、意見交換を行った。

3) 高等学校スポーツ部活動の応援

従来の企画「ウエスレヤンカップ」において、テニス部とバレー部を対象に実施。また、夏のオープンキャンパスでも、スポーツ部対象の企画を実施した。

4) 鎮西学院高等学校との連携

高大連携教育室が中心となり、高校の先生方と連携し、学院内進学者の入学後の修学状況について、報告会を実施した。

また、生徒向けオープンキャンパス 5 回、「福祉基礎講座」として 2 年生対象に「福祉基礎Ⅰ」全 10 回(受講生 19 人)、3 年生対象に「福祉基礎Ⅱ」全 22 回(受講生 24 人)を開催。この「福祉基礎講座」受講生のうち 3 人の学生が、2012 年度入試において社会福祉学科(2 人)と経済政策学科(1 人)へそれぞれ合格した。

また、保護者対象のキャンパスツアーや進学説明会を開催し、連携を深めた。

8. 学術研究の振興関連事業報告

1) 個人研究費の配分状況

2011 年度の個人研究費については、財務逼迫の折、昨年同様 150 千円の配分となった。

2) 共同研究費の配分状況

地域総合研究所共同研究費は採択制により配分されるが、2011 年度の採択制の共同研究費は総額 2,050 千円(うち半額相当額は事業団特別補助の交付を受けた)。

採択された研究課題は次のとおり。

研究代表者	職位	共同研究課題一覧
佐藤快信	教授	明治期におけるキリスト教宣教師による社会開発の再評価
草野洋介	教授	メタボリック・シンドロームの形成の生理的多型性に、アロスタティック・ロードが与える影響
佐藤茂春	准教授	契約不履行の法的救済における司法判断の理論・実証研究
亘明志	教授	質的データの分析に関する社会学と心理学のアプローチの比較研究 ～QDA ソフトウェアの使用を中心に～
裴 瑠俊	准教授	ヒューマンサービス組織における経営戦略と戦略策定手法の開発－日・韓の比較研究を通じたパイロット研究
中野伸彦	教授	新カリキュラムに対応したソーシャルワーク実践の教材開発と活用法に関する研究

3) 科学研究費補助金の獲得状況

2011 年度の科学研究費補助金は、研究分担金が 2 件、継続 2 件、新規採択は 1 件であった。また、2011 年度の科研費申請件数は 9 件であった。

Ⅲ. 学生募集における重点施策

2011 年度も全教職員の連帯と協働をいま一度結集し、入学定員 160 名の確保に臨んだ。

<2012 年度 4 月入学者数>

	定員	出願者		合格者		入学者		
		国内	外国人	国内	外国人	国内	外国人	合計
社会福祉 (昨年度)	50 (50)	50 (48)	0 (0)	50 (46)	0 (0)	44 (41)	0 (0)	44 (41)
経済政策 (昨年度)	70 (70)	34 (37)	3 (5)	34 (37)	3 (5)	25 (22)	3 (4)	28 (26)
外国語 (昨年度)	40 (40)	15 (20)	44 (45)	15 (19)	43 (42)	12 (11)	41 (42)	53 (53)
合計 (昨年度)	160 (160)	99 (105)	47 (50)	99 (102)	46 (47)	81 (74)	44 (46)	125 (120)

<2012 年度入学者 出身県別>

	12 年度	11 年度	10 年度	09 年度	08 年度		12 年度	11 年度	10 年度	09 年度	08 年度
鎮西学院 高校	38	23	25	24	30	熊本	1	1	2	1	0
長崎市内	20	20	18	8	16	大分	0	0	0	0	1
諫早・大村・ 島原	18	23	17	12	13	宮崎	0	0	0	0	1
その他	3	2	5	5	1	鹿児島	0	0	2	1	1
県内小計	79	68	65	49	60	沖縄	0	1	0	4	3
除く 鎮西学院	41	45	40	25	30	その他	44	47	57	57	3
福岡	1	3	0	0	2	計	125	120	126	112	71
佐賀	0	0	0	0	0	除く 鎮西学院	87	108	101	88	41

1. 募集活動の重点施策

高校訪問数はのべ 918 校。特に進学実績がある学校を中心に在学生の情報を提供し、信頼感と密度の高い訪問を実施。

進学説明会は、60 カ所参加。来訪者 96 人(3 年生)のうち 17 人が出願した。

オープンキャンパスは年 3 回(5 月・7 月・8 月)実施。結果、高校生 66 名が参加、うち出願者 16 名となった。

しかし、7 月の OC 日程が県内の複数の大学と重なるなど、調整が必要であると感じた。2012 年度は 7 月 16 日に鎮西学院高校と同日開催とし、県内の他大学との重複を避けることにより、参加者増につなげたい。

また、5 月に教育評論家の尾木直樹氏の講演会を実施し、会場はおろかサテライト会場にも収

容しきれないほどの参加者が集まった。認知度のアップにはなったが、聴講できなかった人が多数出るなど運営に課題を残した。

2. 広報活動の重点施策

資料請求者のアップと「追い込み広報」、模試における志願者アップを重点目標とし、ホームページ上に特設ページを設けるとともにブログにより情報の積極的更新、資料請求者・受験者（一般・センター利用試験）への追い込み広報、社会福祉学科医療福祉コースのリーフレット制作、前述のオープンキャンパスのほか、前述の教育評論家尾木氏による講演会等とともに、メディアへの積極的露出方策に取り組んだ。

本学 HP の今年度アクセス数は約 755,031 件、対前年比 99%となったが、本年 1 月センター入試以降のアクセス数は前年度を上回り、一般・センター志願者への認知度アップが伺えた。

資料請求者に関しては、特に 3 年生の場合、1 週間以内に対象高校を訪問した。2 月以降の受験者に関しては出願時に全高校を訪問、歩留まりのアップに努めた。

今年度は、TVCM をオープンキャンパス及び各試験前に放映、それと並行して新聞広告も計画的に掲載。教員・保護者及び一般市民に対して、本学のブランドイメージを植え付けることに成功した。

3. 入試の重点施策

受験生と高校教員（進路指導）のニーズに応えるため、推薦試験、特待生制度、一般入試の見直しを図った。また、「スポーツ特別選抜入試」（AO 方式）についても重点広報した。

スポーツ特別選抜入試に関しては、2 名の受験者（入学者）であった。うち体操においては多くの大会で優秀な成績を残しており、優秀なアスリートの獲得という目的は達成された。また、男子バレーは、継続的に優秀なアスリートを獲得している。

IV 施設・設備の整備計画

大学教育・学生支援推進事業の一環として、昨年度、学内無線 LAN を全館に整備したが、ネットワーク環境の安定のため、基幹部分であるレイヤー3 スイッチ機器の入れ替えをおこなった。また、ラーニングセンターとしての学習環境の向上のため、大教室施設における PC のメモリを増設した。

鎮西学院高等学校

鎮西学院高等学校 2011年度事業報告

校長 川村 正徳

1 教育の充実

(1) 建学の精神である「キリスト教人格教育」の推進

- ・2011年度目標聖句「見よ。わたしはあなたの前に門を開いておいた。だれも、これを閉めることはできない。」が与えられ、どのような苦難の中にあっても、私たちの未来には神様によってそなえられている道があることを礼拝や宗教行事を通して学ぶことができた。
- ・創立130周年記念行事を通して、本学院の教育をアピールすることができた。
- ・「知育、徳育、体育」に力を注ぎ、バランスのとれた教育を行うように務めた。
野球部の長崎県 NHK 杯優勝、卓球女子・サッカー一部女子・体操女子の高総体団体優勝、男子バレーボール新人戦優勝、吹奏楽部の九州吹奏楽コンクール出場等クラブ活動の活躍が著しい1年であった。

(2) キリスト教教育

- ・毎日の礼拝、物故職員記念礼拝、1年生夏期修養会（2泊3日、雲仙）、平和祈念礼拝を実施することにより、学院の建学の精神を深く心に刻む機会とすることができた。また、創立130周年を記念し、長崎からの平和大行進を実施することにより、本学院の苦難の歴史と平和の尊さを学び、現在の学院が多くの犠牲の上に成り立っていることを再確認することができた。
- ・教師修養会（1泊2日、講師：京都世光教会牧師 榎本栄次師）において、「人であること、人になること」と題してキリスト教学校の使命について学びを深めることができた。

(3) 国際交流

- ・ロータリークラブとの連携により、フランスとカナダからの留学生を受け入れた。
- ・シンガポール・マレーシアへの修学旅行を通して、異文化を体験し、国際理解を深める機会をもつことができた。
- ・イングリッシュバイブルクラスや校内英語スピーチコンテストを実施し、英語力向上に努めた。

(4) 学校力強化

- ・教育活動全般の取り組みの改善と充実を図るため実施した学校自己評価の結果は、宗教教育やスポーツ活動、学校生活などでは高い評価を得た。保護者や生徒の学校に対する満足度は満足・まあ満足を合わせると85%を超える良好な結果であった。ただ、生徒の家庭学習が不十分で、一般進学コースや商業科の生徒に対しては、さらにきめ細かな指導が必要である。
- ・不登校の生徒が年々増加する傾向にあるため、家庭訪問等保護者との連携を密に行ってきた。
- ・2週間の授業公開週間を設定し、教師同士のよい研究機会とすることができた。
今後は、公開授業が形骸化しないように努める。また、授業に限らず教師の研究発表のできる場所が必要と考える。
- ・キリスト教学校教育同盟主催の各種研修会（新任教師研修会、夏期学校、全国中高研究会）、カウンセラー研修会、進学指導研修会（予備校での研修を含む）には積極的に参加するよう務めた。

- ・一般進学コースの学力向上対策として、先進校視察を積極的に行なった。

(5) 学習指導・進路指導の充実

・進学支援

進学説明会や各大学の入試説明会に積極的に参加するためのプログラムを計画した。また、授業の充実を図ったり、早朝・放課後補習や夏期雲仙学習合宿の強化、予備校を活用し教員の進学指導力向上を図り進学率向上に努めた。

大阪大学（外国語）1名、九州大学（理学部）1名、長崎大学7名、熊本大学1名など国立大学24名、私立大学（4年生）は明治大学1名、関西学院大学3名、同志社大学2名、西南学院大学4名、福岡大学10名をはじめ合格者170名を出すことができた。

・就職支援

公務員に7名合格（大村市役所1名、自衛官6名）、一般企業では三菱重工長崎造船所、大島造船所、ウラノ長崎工場、長崎キャノンの合格など就職率100%を達成することができた。

(6) 生徒指導

- ・携帯電話による事故や事件が多発していることから、本校では携帯電話の所持を禁止とし、携帯電話による「いじめ」根絶に取り組んできた。
- ・整理・整頓や校内の美化に努めた。
- ・基本的生活習慣（制服の着こなし、積極的な清掃活動への取り組み、遅刻や欠席の減少）の徹底を図るなど規範意識の向上に努めた。

2 2011（平成23）年度ながさき私学魅力アップ事業報告

(1) 普通科一般進学コース・商業科基礎学力向上対策

- ・本校の普通科一般進学コース・商業科に在籍する生徒の中には、基礎学力が不足し、自分自身に自信が持てず、何事にも自ら取り組もうとする姿勢が弱い生徒が多い。この現状を打開するために、学力不振の生徒に「自導自治」の精神を育み、学力向上を図るための事業を立ち上げた。
- ・4月スタディーサポート及び進路マップテストを実施し、成績の確認と今後の弱点強化のための2者面談を実施した。
- ・9月に第2回の同上のテストを実施し、その結果を受けて10月中旬に2者面談を実施し、成績不振者を中心に居残り学習を実施した。
- ・11月に教頭、英語科主任、英語科若手教員の計3名で出雲西高等学校に先進校視察を実施し、次年度の授業展開や進学指導の参考とした。
- ・2011年度より一般進学コース学力向上委員会を立ち上げ、毎日の英単語テスト、数学計算力アップ小テストの実施や金曜日を中心に居残り学習会（イブニングゼミ）を実施した。その結果、学習意欲も高まり、成績不振者も減少し、2名の国公立大学コース編入者が出た。また、今春の大学受験では一般進学コースから現役で国立大学への合格者が出た。

(2) 国公立大学進学コースポテンシャルティプラン

- ・本校教師により、成績上位者を対象としたパワーアップセミナー（19:00～20:30）を1学期9回、2学期15回、3学期6回 全30回実施した。（国英数物）
- ・久留米ゼミナールの講師を招聘し、特別講義を実施した。（英語・数学）

1 学期 2 回、2 学期 2 回、3 学期 1 回の全 5 回（10 日間）

- ・東京や福岡の予備校（駿台・代々木・河合塾）で実施する教師指導力アップの講座に 7 名の教師を派遣した。
- ・3 年生の国公立大学進学コース生を中心として居残り学習会を 9/5～2/23 の期間、月～金は 20:30 まで、土日祝は 9:00～17:30 まで実施した。
- ・セミナーハウスを用いた少人数学習合宿において、本校卒業の大学生を学習指導補助として招き、個別指導を行った。年間指導時間 51 時間実施した。

3 生徒募集対策

(1) 入学者 300 名（学則定員）の確保

2010 年度の入学者が 285 名（15 名の定員割れ）に留まったことを反省し、2011 年度は学則定員 300 名を越えるべく広報委員会を中心に広報活動を行った結果、364 名という予想外の入学者を得ることができた。これは、広報委員の献身的な働きは当然であるが、全教職員が「日頃の教育活動が生徒募集につながる」ことを常に意識して、生徒の指導にあたってくれたことが最大の要因と考えられる。2011 年度の長崎県全体の受験生は 2010 年度とほぼ同数であったが、本校の全受験生は 1、631 名と前年度より若干ではあるが増加し、（前年度 1、577 名）、また一般入試（併願＋一次）の歩留まり率が 14%（前年度 10%）と例年になく高い結果となり、定員の 2 割増の新入生を迎えることができた。徐々にではあるが、本校の「きめ細かな指導」が理解されているのではないかと自信を深めることができた。今年度も、謙虚な姿勢で一人一人を大切にする教育を進めていきたいと考える。

(2) 諫早・大村地区等近隣中学校訪問

今年度の入学者 364 名中、諫早市内の中学校からの入学生は 201 名（55%）、大村市内の中学校からの入学生 74 名（20%）といずれも昨年度より増加し、全入学者の 75%を地元で占める結果となった。各中学校からは保護者の要望など細かなことまで聞いてくれることが多いので、今後も高校側からどのように育てているか中学校側に対して詳しく説明するなど、地元で愛される学校作りに励んでまいりたい。

(3) 長崎地区・離島地区・県外募集について

長崎地区は吹奏楽部関係で入学者が増加傾向にあるが、今年度は、諫早市内からの吹奏楽部入部希望者が多く、長崎地区からは 27 名の入学者（昨年度 30 名）に留まった。ただ、吹奏楽部の募集力は非常に強力であり、長崎地区の募集は吹奏楽部中心に今後も進めていく必要がある。離島地区では対馬市からの入学生は 7 名と昨年比半減したが、対馬地区では本校に対する評価は非常に高く、さらに訪問の強化、保護者会の充実を図っていきたい。

県外、県北地区は部活動勧誘による浸透が功を奏するので、年 2～3 回は訪問したい。

(4) 塾対策

2012 年度入試の反省として、諫早高校や西稜高校との併願者が少なかったことが挙げられるが、もっと塾に対して進学実績や充実した指導内容をアピールすることが重要と考える。また、受験者の質的なレベルアップを図るため、頻繁に訪問し、理解していただくための努力が必要がある。

(5) オープンキャンパスの充実

2011年度は中学生の視点から、魅了あるオープンキャンパスを実施するため、専門の業者にプロデュースを依頼した。

7月、8月、11月の年3回実施したが、参加数はのべ2,115名（前年度比+623名）と沢山の中学生や保護者が本校に対し興味を示してくれた。

4 施設・設備整備実績

(1) 事務室・校長室移動

生徒、来客、教職員にとって、これまでの不便さが解消され、対応がスムーズに行えるようになった。

(2) ロング寮屋上防水工事

ロング寮は建築後20年を経過しており、屋上の劣化が進んでいたが、修理することにより、雨漏れも改善され建物の保全にもつながった。

(3) 校舎外壁塗装工事

校舎建築後22年が経過し、外壁の汚れが目立っていたが、塗装工事を行うことにより、見栄えもよくなり、またひび割れ等も同時に修繕することができ、建物の保全につながった。

(4) スクールバスの購入

生徒を安全に送迎するために、老朽化が進んでいた2台のバスを購入し、入れ替えた。

(5) トイレの改装工事、井水配管工事

2011年度はトイレの改装工事、井水配管工事は見送ることとした。

トイレについては、委員会を立ち上げ検討したが、さらに詰めて検討する必要がある。

井水配管工事については、調査を業者に依頼中である。

鎮西学院幼稚園

子どもたちの瞳の輝きがここから生まれます

1、教育の重点目標

“保育の原点がここにはあります”

① 保育のこころ（保育目標）

- ア) 幼児教育は、人生の土台（人格形成）を育む、大切な基礎づくりと心に刻んで保育に努めた。
- イ) キリスト教の精神に基づき、キリスト教保育を柱として、人を思いやり愛のことばで毎朝子ども達と教師が祈りをもって一日をスタートさせることができた。
- ウ) 宗教行事の礼拝や親子礼拝も、林田学院長、山城大学宗教主事、鉄口高等学校宗教主任、各牧師先生方のご協力を得て実施できた事は感謝です。また、園ホールでの合同礼拝は園の教師で実施した。
- エ) 学院を包む広大で緑豊かな自然の中で、園長キャッチフレーズ『幼児にとっては遊びが仕事』という理念の下でのびのびと遊び、そこから社会性や協調性が培われ、他者への思いやりいたわりの気持ちも育ってくると信じる。それは、これからやってくる子ども達の人生の中で『生きる力』の礎になると確信し取り組んできた。

② キリスト教保育の充実

『保育のこころ』（保育目標）・ピースチャペルでの「親子礼拝」・毎日の「保育室での礼拝」祈りをもって一日をスタートさせることができた。・「クリスマス礼拝祝会」等を通して、当園の特徴を保護者に理解してもらうように充実を図った。3年目になるがクリスマス礼拝祝会は園児数増加に伴い、大学のご協力をえて西山ホールで開催してきた。保護者からは好評で継続したい。

③ 学校評価と自己評価の推進

学校評価は保護者等より客観的・総合的な評価を受け、「開かれた園づくり」「安心と信頼の構築」の実現に向けて推進。自己評価は教職員に実施し、教育の再確認や改善のため推進。

④ 園だより・クラスだより・フォトレターを毎月発行し充実を図る

その月のカリキュラム（教育課程）や園・クラスの様子を知らせ、保護者に安心感と信頼関係の構築に寄与してきた。

⑤ 園長体操教室の取り組み

他園には真似できない園長体操教室。「心と体の健康」を喜びの中で育てていく。また、未就園児と親子のつどい『おひさまくらぶ』にも導入し好評である。

⑥ 教職員のこころ（組織論の基本）

※ 一日の始まりはお祈りから

1. 園長を中心に組織がまとまる心をもって行動できた。
2. 園の方針を理解し、その方針に添って行動できた。
3. 教職員が職場に誇りを持っている。
4. 笑顔で保護者とのコミュニケーションがとれた。
5. 教職員を引っ張れるよい主任がいる。
6. 教職員が笑顔に満ち溢れている。
7. 挨拶がスムーズにできた。
8. 掃除が行き届いた。

「教職員間の
共通理解・
共通実践」が
実行されて
いる。

“キリスト教保育の場にいる保育者は、教会の礼拝を肌で感じ、大切にしている心が求められている” この実現推進を図る。

2、園児募集対策

”魅力あふれる幼稚園づくりを目指して”

- ・100名の定員確保を目標

園児募集対策の重点施策は基本的に『保育の充実』にある。教師の研鑽を積むことで、より良い保育の実践が展開されることを、全教職員が理解し汗をかいて努力してきた。

『園児数の推移』

2001年度（平成13年度）	・・・	83名	
2002年度（平成14年度）	・・・	93名	
2003年度（平成15年度）	・・・	92名	
2004年度（平成16年度）	・・・	94名	
2005年度（平成17年度）	・・・	80名	
2006年度（平成18年度）	・・・	77名	
2007年度（平成19年度）	・・・	<u>64名</u>	
2008年度（平成20年度）	・・・	72名	
2009年度（平成21年度）	・・・	106名	
2010年度（平成22年度）	・・・	104名	（3ケタの数値は最前線で頑張っている、教職員の汗の結晶である。）
2011年度（平成23年度）	・・・	109名	

- ① 広大で緑豊かな学院全体の活用強化で「心と体の健康」を推進
園内はもちろん、高等学校のグラウンド、大学のキャンパス、自然に恵まれた広大で緑豊かな自然環境の中で、「心と体の健康」を子どもたちに育てている。その主なる活用は「学院内遠足」を各学期ごとに実施している。「運動会」や「どんぐり拾い」「探検ごっこ」・「散歩」も行っている。（これぞ鎮西学院幼稚園にしか出来ない保育であり行事である。）
- ② 遠足の充実
2011年度より3月のお別れ遠足は、年長組を園～県立総合運動公園（3 km）まで徒歩に挑戦させた。年中組は市営野球場～挑戦（1.5 km）した。年少組は、バスで現地まで行き運動公園内を歩く。従来通り4月の歓迎遠足は大型バスを利用し現地まで行く遠足。3ヶ所を1年置きに実施（干拓の里・白木峰・大村琴平公園）。全体的に充実してきた。
- ③ 外注弁当導入
子育て支援の一環として、2010年度より週1回月曜日を全員外注弁当（給食）方式を完全実施。保護者に好評である。
- ④ 未就園児と親子のつどいの推進（オープンキャンパスの一環）
保育主任主導で月3回おひさまくらぶ（2歳以上対象）実施。学期毎に1～2回グリーンクラブ（1歳以上対象）実施。子育て支援の一環として楽しいプログラムを充実させ、広報に結びつけるように進め、園児募集には大いに貢献している。
- ⑤ 行事の充実と保護者会（ひかりの会）との連携推進
キリスト教行事の充実は元より、他の行事もすべて全力投球で進めている。また、保護者の参加型行事も増やし、幼稚園への理解・協力を深めてもらう絶好の機会となり、幼稚園の活性化にもつながっており維持していきたい。
- ⑥ 預かり保育の充実
子育て支援の一環として、仕事をしておられるお母さん方への支援である。園児増で保育者を2人体制で充実を図り定着してきた。
- ⑦ インターネットによるブログの充実
ホームページにブログを開設し、2～3日置きに更新している。保護者や一般の方が子どもたちの園生活を見られており情報を地域へ発信してきた。また、幼稚園選びの一助にもなっており力を注いできた。（多い日のアクセス件数2011年6月5日767件で関心の高さがうかがえる）

- ⑧ ミニ講演会の取り組み
食育や子育て支援に役立つ話をお母さん方に発信し、文化活動の学びを深めることができた。
・「弁当力、子どもの心も育くむ食」・・・佐藤剛史（九州大学農学部准教授）
- ・「体操内村航平選手の母親による講演」・・・内村周子先生
・「メディアとの上手なつきあい方」・・・宮尾千寿子先生（前ひかりの会会長）
・「アウトリーチコンサート」・・・大村室内合奏団 ・「食育」・・・きらくらくらぶ
- ⑨ 高校吹奏楽部による本年度初の試み『親子で楽しむ森の園庭・音楽会』が実現できた。
子どもたちに優れた生演奏を聞かせることは、芸術との出会いの始まりである。心に響き、感性や創造性を育て、心豊かなものが生まれる。このような音楽会は本園にしか出来ない文化活動である。好評で今後も継続したい。
- ⑩ 国際交流会の活動推進
学院の大学・高校の留学生および教職員を幼稚園に招き、各国の紹介や歌等で交流を深め、幼児期よりグローバルな心を育てたいとの願いが実現できた。（高校からカナダ留学生）
- ⑪ 制服を創立55周年の年2010年にリニューアル
2012年度で全園児揃う。幼稚園の新たな前進で楽しみである。
- ⑫ パパの会の活動を復活
園内作業や行事、スポーツ活動を通して、父親と保育者がコミュニケーションを図り、幼稚園への協力・理解を深めてもらう会。しかし、今年度は実現できず残念である。

3、施設、設備及び環境整備

- ① 園児送迎用ミニバス（ワゴン車）業務委託廃止
2008年度よりタクシー会社と業務委託を継続してきたが、経費面での事情で2011年度契約打ち切りとした。2012年度からは、園で中古ワゴン車を購入し運行を継続する。
- ② 廊下に雨が降りこむための防御策検討中
雨風がひどい日は廊下に雨が降り込み、子どもたちが朝の登園時や帰りの靴の履き替え時に濡れてしまい、迷惑をかけている。しかし、窓やビニールカーテン方式を考えても、景観の素晴らしさが損なわれるため苦慮している。
- ③ 園庭整備の推進
1. 砂場及び泥遊び場の整備充実を図ってきた。
幼児教育の中で泥遊び・砂遊びほど重要なものはない。
 2. 職員全員で園庭内遊具のペンキ塗りを3年おきに実施している。（パパの会との連携を図りたい）
 3. 園庭美化のため芝を刈り美しい園庭にしている。緑の芝生の上で子どもたちを素足で遊ばせたい。また、花いっぱい運動を展開し、一年中花に囲まれ子どもたちが笑顔あふれる幼稚園として認知されてきている。
- ④ 園舎老朽化への対応
築42年の建物。今後、建替えを視野に大きな検討課題である。

4、危機管理

“幼稚園は子どもたちの命を守る使命が絶対条件”

- ① 夜間の防犯管理は警備会社に委託し、警備体制をとっている。
- ② 幼稚園の遊具による事故は致命傷となるので、学期ごとに職員総出で点検している。（特に腐食等を要注意）
- ③ 園児の避難訓練は年間を通して実施している。（各学期に2回実施。不審者、火災、地震）各マニュアルも点検整備している。特に不審者対策では正門前の運行部に応援要請している。
- ④ 職員室には『さす股』も常設している。
- ⑤ 不審者対策の道具『ネットランチャー』を常設している。（ネットランチャーとは、鉄砲方式で一瞬にネットが3～4m飛び出し、身体に絡みつくと画期的な防犯対策機器。）
- ⑥ 不審者対策の道具『ガス噴射器（消火器の小型）』を常設し不審者を撃退する。
※ 今後も更なる整備充実を図っていく。